

中 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究構想図	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	5
VI	成果の検証	15
VII	研究の成果	16
VIII	研究の課題	16

研究主題

自己のよさや可能性を生かす力を育成する学級活動の工夫 ～自主的・実践的な集団活動の自己評価や相互評価を通して～

I 主題設定の理由

教育再生実行会議では、「子供たちの自己肯定感が低く、自分に対して自信がないままでは、必要な資質・能力を十分に育めたことにはなりません。そのため、子供たちが自信をもって成長し、より良い社会の担い手となるよう、子供たちの自己肯定感を育む取組を進めていく必要があります。」と述べられている。また、中学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)の第2章 第1節 特別活動の目標の(1)③「自己実現」の視点では、「自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力」が必要な資質・能力であると示されている。

生徒の実態を把握するために、特別活動における「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を踏まえたアンケートを作成し、調査を実施した。その結果、学級での自分の役割は理解しているが、自分のよさや可能性を生かしているという実感や、自分が集団の中で成長しているという実感が十分にもてていない生徒が多いということが明らかになった。他にも、他者の意見や考えを認めることはできるが、自分の考えを主張することが苦手であったり、学級ために力を尽くしたいという思いはあるが、発言や行動を他人に頼る傾向があることも分かった。このように、自分のよさを肯定的に捉えることができず自己肯定感が低い生徒は、学級や学校において互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することは難しいと考えた。以上のアンケート調査から、研究主題を設定するに当たり、自己の個性を肯定的に捉え、自己のよさや可能性に気づき、それらを生かして協力し合える人間関係を築くことが必要であると考えた。そのためには、自分の目標に対する自己評価だけでなく、他者からの評価も重要である。また、その場限りの評価ではなく、振り返って気付いたことや考えたことなどを、生徒が記述して蓄積する教材を活用することが、自己のよさや可能性を生かす力の育成に有効であると考え、本研究主題を設定した。

II 研究の視点

前述のように、自己のよさや可能性を生かす力を育成する学級活動を展開するには、様々な集団活動における自己評価や相互評価を行い、それらを積み重ねていく工夫を行うことが必要であると考えた。そこで、学級活動において、自己や他者の個性を理解して尊重し合い、互いのよさや可能性を生かす力を育むために必要な指導計画と活動の展開について検討した。

自己の理解を深めるために、学期や行事ごとに生徒一人一人が具体的な行動目標を設定し、その後、目標の振り返りを行うことで、成果と課題を把握することができると考えた。また、相互評価を通して、自分がどのような役割を果たせていたかを知ること、自己の個性を深く知ることになると考えた。さらに、そのような自己の成長の実感や他者から認められる体験の積み重ねが、自己肯定感を高めるとともに、自己確立や自己実現の基盤となる資質・能力を身に付けることにつながると考えた。研究の成果については、年度当初に行ったアンケートを再度実施し、その変容を分析することとした。

Ⅲ 研究構想図

研究の背景

教育再生実行会議 第十次提言（平成 29 年 6 月）

子供たちの自己肯定感が低く、自分に対して自信がないままでは、必要な資質・能力を十分に育めたことにはなりません。そのため、子供たちが自信をもって成長し、より良い社会の担い手となるよう、子供たちの自己肯定感を育む取組を進めていく必要があります。

中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月） 第 2 章 第 1 節

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動である。

生徒の実態

学級での自分の役割は理解しているが、自分が正しいと思うことを主張することに苦手意識をもち、発言や行動を他人に頼ることがあり、自分のよさや可能性を学級で生かしているという実感や、自分が集団の中で成長しているという実感がまだ十分でない。

目指す生徒像

- ・ 集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへ形成できる生徒
- ・ 集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする生徒
- ・ 集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする生徒

研究主題

自己のよさや可能性を生かす力を育成する学級活動の工夫
～自主的・実践的な集団活動の自己評価や相互評価の積み重ねを通して～

研究仮説

様々な集団活動の中での自己評価や相互評価を積み重ねていくことで、生徒自身が成長しているという実感をもつことができれば、自己実現に必要な資質・能力である自己のよさや可能性を生かす力が高まるだろう。

○基礎研究

- ・ 「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上(第十次提言)」から課題の把握
- ・ 『『キャリア教育』資料集』から指導記録の積み重ね方法の研究
- ・ 「評価規準の作成のための参考資料(中学校)」から評価方法の研究(平成 22 年 11 月)

○調査研究

- ・ 学級活動における実態を把握するための調査と分析「学級におけるアンケート」

実践研究

- ・ 自己のよさや可能性を生かす力を育成する学級活動の指導計画の作成
- ・ 自己のよさや可能性を生かす力を育成する学級活動の実践と検証

IV 研究の方法

研究主題である自己のよさや可能性を生かす力を育成するためには、自己評価や相互評価の積み重ねにより、自分自身のよさに気付かせ、そのよさを生かせるような具体的な行動目標を設定することにより、生徒自身が成長しているという実感をもたせる学級活動を行うことが望ましいと考え、以下のような方法で研究を行った。

1 文献・資料による研究

- 中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月）
- 「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上（第十次提言）」教育再生実行会議（平成 29 年 6 月）
- 『『キャリア教育』資料集』文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（令和元年 5 月）
- 「評価規準の作成のための参考資料（中学校）」国立教育政策研究所（平成 22 年 11 月）

2 教材開発

生徒が学級の一員として、学級や学校の中での生活をよりよくするための具体的な行動を考え、実行しようとする態度を養うことが必要であると考えた。そのため、「係・委員会・当番活動」、「行事」、「仲間との関わり」、「授業態度」のように場面や活動内容に分けて、行動目標を考えることとした。

3 指導方法の工夫

自己評価や相互評価の際に、生徒自身が場面ごとに分けて考える工夫として、「係・委員会・当番活動」、「行事」、「仲間との関わり」、「授業態度」を 4 色に色分けした。また、話し合い活動を行う上で、各校に合わせた話し合いのルールを提示した。

4 検証授業

仮説を検証するために検証授業を 4 回行った。主に、中長期的な目標設定と評価、短期的な目標設定と評価の指導計画を立て、実践した。

5 成果検証

学級活動における実態を把握するために、平成 25 年度から平成 30 年度までの東京都教育研究員が開発した「学級活動におけるアンケート」（表 1）の質問項目を参照し、検証授業の前後（5 月、11 月）にアンケートを実施した。アンケートの項目は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点で分類した。この 2 回の調査結果を比較し、成果を検証した。また、生徒が記入したワークシートや評価シートをポートフォリオとして積み重ね、生徒一人一人の変容から、その成果と有効性を検証した。

表1 学級活動におけるアンケート

これは学級活動に関するアンケートです。今の自分の気持ちや行動に近いものを一つ選び、数字に○を付けてください。

4 あてはまる 3 どちらかといえばあてはまる 2 どちらかといえばあてはまらない 1 あてはまらない					
1	私は自分のよさを学級活動で生かしている。	4	3	2	1
	自分のよさを書いてください。(自由記述)				
2	私は友達によさを認めて行動している。	4	3	2	1
	気付いた友達によさを書いてください。(自由記述)				
3	私は、学級活動で班員に自分の意見を述べるができる。	4	3	2	1
4	私は、学級活動で学級全体に自分の意見を述べるができる。	4	3	2	1
5	相手の意見や考えが自分と違っていても、相手の意見や考えを認めることができる。	4	3	2	1
6	意見や考えが人と違っていても、自分が正しいと思うことを主張できる。	4	3	2	1
7	私は友達や学級のためになることは、自分で見付けて実行している。	4	3	2	1
8	学級活動で発言するとき、恥ずかしいと思わない。	4	3	2	1
9	私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる。	4	3	2	1
10	私は人のために力を尽くしたい。	4	3	2	1
11	私は学級のよいところと課題を理解している。	4	3	2	1
12	私は学級の課題解決や目標達成に向けて行動したいと思う。	4	3	2	1
13	学級集団で活動するときに、人任せにしてしまうことがある。	4	3	2	1
14	私は学級の課題解決や目標達成のために行動している。	4	3	2	1
15	私は学級の課題解決や目標達成のために仲間と協力して取り組んでいる。	4	3	2	1
16	自分の学級は居心地がよい。	4	3	2	1
17	私は仲間の意見を生かしながら話し合い活動に取り組んでいる。	4	3	2	1
18	友達は私のよいところを見付けようとしている。	4	3	2	1
19	私は学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる。	4	3	2	1
20	私は学級活動を行う上での自分の課題を理解している。	4	3	2	1
	理解している自分の課題を書いてください。(自由記述)				
21	私は学級活動を通して、自分の成長を感じている。	4	3	2	1
	自分の成長を感じる場所を書いてください。(自由記述)				

()年 ()組 ()番 氏名 ()

アンケート項目は、1・3・4・19・20・21の質問事項が「自己実現」に、2・5・6・16・17・18の質問事項が「人間関係形成」に、7・8・9・10・11・12・13・14・15の質問事項が「社会参画」に、それぞれ関連付けられている。

V 研究の内容

1 基礎研究

(1) 特別活動の成果と課題

中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年 7 月）では、「特別活動は、学級活動、生徒会活動・児童会活動、クラブ活動、学校行事から構成され、それぞれ構成の異なる集団での活動を通して、特別活動は児童生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動として機能してきた。協働性や異質なものを認め合う土壌を育むなど、生活集団、学習集団として機能するための基盤となるとともに、集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化の醸成へとつながり、各学校の特色ある教育活動の展開を可能としている。」と、その成果を示す一方で、「特別活動は『なすことによって学ぶ』ことを方法原理とし、各学校において特色ある取組が進められているが、各活動・学校行事において身に付けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につながるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきたという実態も見られる。特別活動が各教科等の学びの基盤となるという面もあり、教育課程全体における特別活動の役割や機能も明らかにする必要がある。」と課題を示している。

(2) 学習指導要領改訂の基本的な方向性

今回の学習指導要領改訂では、特別活動の特質を踏まえ、これまでの目標を整理し、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」を指導する上で重要な三つの視点として整理されている。また、小学校から高等学校等までの教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むというキャリア教育本来の役割を改めて明確にするなど、小・中・高等学校等とのつながりが明確にされた。

2 調査研究

平成 25 年度から平成 29 年度までの東京都教育研究員が開発した「学級活動におけるアンケート」を、各研究員の所属校において実施し、実態把握を行った。

3 検証授業

(1) 題材「行動目標の設定と自己評価・相互評価」

(2) 題材設定の理由

生徒に自己の成長を実感させるために、振り返り活動の徹底が必要と考えた。振り返り活動をするためには目標設定が必要だが、その際、抽象的な目標より具体的な目標の方が、より正確な評価が可能になる。そのため、学級活動(2)アの取組の実施に際しては、具体的な行動目標を意思決定することとした。また、目標を設定し、自己評価と相互評価を行うことで多面的な評価を可能とし、その多面的な評価を通して、自分のできたことを実感させていく。

(3) 評価規準

	① 集団活動や生活への関心・意欲・態度	② 集団や社会の一員としての思考・判断・実践	③ 集団活動や生活についての知識・理解
単元の評価規準	学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

(4) 指導計画

時期	活動の内容	指導上の留意点
7月	◇検証授業1 「1学期のまとめ 学級の一員として」	・ 1学期の学級活動への取組に対して、自己評価と相互評価を行い、学級に貢献をしているという実感を得る。
9月	◇検証授業2 「2学期の目標づくり 具体的にどのように学校生活を送るべきなのか」	・ 学年目標を念頭に1学期の反省を振り返り、2学期の学級の行動目標を、学級で意思決定する。
10月	◇検証授業3 「合唱コンクールに向けて 学級の一員としてどのように行動するべきなのか」	・ 2学期の目標を踏まえつつ、合唱コンクールに対する行動目標を具体的に考える。また、実行しようとする態度を養う。
11月	◇検証授業4 「合唱コンクールの振り返り 学級の一員としてどのように行動できたか」	・ 合唱コンクールで、行動目標を基に学級にどう貢献できたかを振り返り、自己の成長に関する成果と課題を見いだし、今後の学校生活にどのように生かすか考える。

(5) 検証授業

ア 第1回

(7) 題材名「1学期のまとめ 学級の一員として」

学級活動（2） 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

(イ) 本時のねらい

1学期の学級活動への取組を自己や他者との対話を通して評価し合い、自分や仲間が努力したことや集団に貢献した実感を得るとともに、今後の学校生活や社会生活に生かそうとする態度を養う。

(ウ) 本時の展開

	学習内容	指導上の留意点	評価規準
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を確認する。自分のよさに気づき、今後もよりよい学級の生活づくりをするための具体的な行動を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確に指導する。 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・【自己との対話】① 1学期の間に、クラスのために頑張ったことを書く。 ・【他者との対話】 班の仲間が学級に貢献したことを見付け、それを本人に伝える。 ・付箋の色分け 赤・・・係・委員会 黄・・・行事 青・・・仲間との関わり 緑・・・授業・生活態度 ・【自己との対話】② 仲間から得た意見を整理するとともに、学級生活における自己の課題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な例を示して評価させる。 (係・委員会、行事、授業や生活態度、友達への思いやりなど) ・班員との対話を通して、仲間のよさを認めるとともに、自らが学級の役に立っていることに気付かせる。 ・具体例を説明して書かせる。班員全員に対して付箋を書かせる。 ・もらった付箋について、 ①色の偏り ②記述内容 などを参考に自分に足りないものを考えさせる。 	<p>【知識・理解】 自己の生活について振り返ることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 他者との対話を通して、自己理解を深めることに関心をもって取り組もうとしている。</p> <p>【思考・判断・実践】 自己の成長に関する課題を見いだしている。</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさを、今後の生活にどのように生かすか考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい学級生活づくりのために、具体的にどのように活動するかといった「自らの行動指針」を見いだすように指導する。 	

(エ) 生徒の変容

今回の学級活動を通して、以下のように、自分のよさと課題について気付く生徒の変容がワークシートの記入内容から見られた。

「1 一学期の間に、学級のために頑張ったことを二つ書こう。」

- ・ 運動会で、整列などの呼びかけをしたり、クラスメイトの応援をしたりしたこと。みんなが呼びかけどおりに動いてくれた。

→ 運動会への取組について記述している。また、同時に、自身が行った呼びかけに対して、クラスメイトが応じてくれたことを記述している。

「2 一学期の間に『班の仲間が学級のために頑張っていたこと』を見付け、それを本人に伝えよう。」

- ・ 体育の時にいつも声を出して、適切で分かりやすい指示をしてくれてよかった。
- ・ ○○さんは、器が広くて友達から信用されています。○○小学校など、他の学校の人たちともすぐに仲良くなれてすごいと思いました。

→ クラスメイトから、委員会のことだけでなく、友達から信用されていることや友達と仲良くできたことについて、他者から評価されている。

「3 仲間からのコメントを参考にし、自分の課題を考えよう。」

→ 班員からもらった付箋の色を参考に、自身に足りないものを見だし、具体的に行事や授業・生活態度を課題として捉えている。

「4 明日から、これを頑張る宣言」

【私は、よりよい学級生活づくりのために、明日から自分のよさを生かして】

- ・ クラスの人たちともっと仲良くなって、困っていたら助けてあげたい。委員会に積極的に取り組んでいきたい。

【私は、よりよい学級生活づくりのために、明日から自分の課題を克服して】

- ・ 授業の時、分かるときはなるべく手を挙げて発言していきたい。行事に積極的に取り組んで、学級の人たちともっと仲を深めていきたい。

→ 友達に指摘された「友達との仲のよさ」を自らのよさとして認識した記述がみられる。また、授業や行事への取組について具体的な行動を考えて記述している。

(オ) 検証授業の成果

自己評価をするだけでなく、他者からの評価を受けることで、自らのよさや課題について多面的に考えることができた。特に、他者に認められる経験を通して、自分では気付かなかった「自分のよさ」に気付くことができた。こうした経験の積み重ねにより、生徒の自己肯定感を高めていく効果が期待される。

イ 第2回

(7) 題材名「2学期の目標づくり 具体的にどのように学校生活を送るべきなのか」

学級活動（2） 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

(イ) 本時のねらい

1学期の学級活動において、学級の目標を定め、それに基づいて活動し、最終的に評価し反省をした。本時において、具体的にどのような行動が学級での生活をよりよいものにするのか考える。また、自分の価値観を確認するとともに、他者の価値観を知り、更にその異なる価値観をどのように尊重し合い、合意形成をするのかを学ぶ。

(ウ) 本時の展開

	学習内容	指導上の留意点	評価規準
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標、手順を説明する。 ・話し合いのルールを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員が自分たちで考えて作った話し合いのルールを意識させる。 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・学年目標、行動目標づくりの観点を確認する。 ・【他者との対話】①ブレインストーミングを用いてマトリクスシート（4マス）に記入した後、2個に絞る。（4人班×8） ・短冊に内容を書き写す。 ・【他者との対話】②集まった短冊について検討し、学級の具体的な行動の目標を3個に決定する。（合意形成） ・決まった内容について、黒板に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マトリクスシート（4マス）と短冊に関しては、授業開始前に班長に配布しておく。 ・短冊は色画用紙で作っておく。 ・どのように合意形成を行わせるか意識的に指導する。（8班に4観点を割り振る。1観点につき2班が担当する。） 	<p>【知識・理解】 話し合いを充実させる方法を理解している。</p> <p>【思考・判断・実践】 集団をよくするためのアイデアを出している。</p> <p>【関心・意欲・態度】 他者と協働的に話し合いを行おうとしている。</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・班の代表者が発表する。 ・【自己との対話】振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに取り組ませることで、異なる価値観を尊重し合い、合意形成を図るよう指導する。 	

(エ) 生徒の変容

授業の最後に、ワークシートに記入させたところ、自分が学級のために役に立てたことについて自信をもって記入する姿が見られた。話し合いに自分なりに考えながら取り組んだことで、自己の成長を実感するという変容が見られた。以下に生徒の記述を列記する。

- ・ 自分から意見を出すように意識した。
- ・ いつもなら多数決をするが、相談しながら多数決に頼らず決めるようにした。
- ・ 一部の人だけが発言したり、一部の人が発言しなかったりとならないように気を配った。
- ・ 今までは遠慮することが多かったが、今回は自分の意見をはっきり言うことに意識して取り組んだ。
- ・ 人任せにせず、時間終了までアイデアを出すことができた。
- ・ みんなの意見を聞いて、完璧に納得できる意見でなかったとしても、相手の気持ちを考えて尊重できた。
- ・ 最初に意見を出すのは難しいと先生が言っていたから、敢えて最初に意見を出すようにした。

生徒は話し合いのルールを意識しながら、今までの自分にはできていなかったことに取り組むことができた。

(オ) 検証授業の成果

話し合いのルール
9月3日版

授業後に生徒に話を聞いてみたところ、「具体的にどう行動すればよいか分かった」という感想が出た。自分がどう行動すべきか分からないときは、行動目標に立ち返ることを意識させたことで、生徒から、「目標を見よう」という言葉が出るようになった。校外学習でも、合唱コンクールでも、常に目標に立ち返りながら行動することができた。

また、その後も月に一度、目標を見ながら自己点検を行い、4人程度のグループで相互評価に取り組むことで、できることが増えていく自己の成長を感じる場面が増加した。

1	話を聞く
2	前向きな発言をする
3	途中で意見をまとめる時間を作る
4	他人の発言をさえぎらない
5	人の気持ちを考える
6	話し合いに協力する
7	最後まで考え抜く

内容について、
学級委員が事前に
検討した。

ウ 第3回

(7) 題材名「合唱コンクールに向けて 学級の一員としてどのように行動すべきなのか」

学級活動（2） 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

(イ) 本時のねらい

合唱コンクールという学校行事を通して、学級で一つのことに取り組み、成功させるためには、どのように行動してかなければいけないのかを考えさせ、実行しようとする態度を養う。

(ウ) 本時の展開

	学習内容	指導上の留意点	評価規準
導入 10分	・本時の目標を確認する。	・2学期当初に決めた、学級としての行事の行動目標を確認させ、意識させる。	
展開 30分	<p>・【自己との対話】① 学級としての行動目標を基に、個人として、学級のためにどのような行動をとりたいかを書く。</p> <p>・【他者との対話】 個人の行動目標を班で発表し、意見交換する。</p> <p>・【自己との対話】② 合唱コンクールに向けての意気込み・メッセージを書く。</p>	<p>・「合唱の練習時間」、「音楽の授業」「その他」と場面ごとに分けて考えさせる。</p> <p>・合唱がうまくなるためだけでなく、学級で気持ちよく練習するためには、どのような行動が必要か意識させる。</p> <p>・自分にはなかった考えを発見させる。</p> <p>・時間があれば、何名かの生徒に全体で発表させる。</p> <p>・学級で前向きに取り組んでいけるような言葉や、自分は学級にどう貢献できるか考え、別紙に書かせる。</p> <p>・後日掲示する。</p>	<p>【思考・判断・実践】 自己の生活の課題を見いだしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 他者と自己の生活上の課題について振り返ろうとしている。</p> <p>【思考・判断・実践】 他者との対話を基に、自ら意思決定をしている。</p>
まとめ 10分	・本時の振り返りのため、評価シートを記入する。	・自己の成長について意識させる。	

(エ) 生徒の変容

授業の最後に、本時の評価シートを記入させたところ、自己の成長を実感するという変容が見られた。(30名)

「1 学級の行事の行動目標を基に、具体的な個人の目標を考えましたか。」という質問への回答は、「はい」が17名、「努力した」が12名、「いいえ」が1名であった。

「2 合唱コンクールに向けて、学級のために行動しようとしていますか。」という質問の回答は、「はい」が28名、「いいえ」が2名であった。

「3 今日の感想。」

- ・ 自分がやらなければいけないことが意外とたくさんあった。
- ・ みんなとてもよい意見を考えていてすごいと思いました。みんなが言った意見などを自分の目標に取り入れることができた。
- ・ 今日の活動で私は、学級のために行動していきたいと思った。1回1回の練習を大切に行うことができるように頑張りたいと思った。

「4 今日の授業で、学級の役に立てたこと（やってみようと思えたこと）を書きましょう。」

- ・ 班の中で、自分の意見を具体的に言うことができた。
- ・ 班長として、班のメンバーからそれぞれの意見を聞いて、分かりやすくまとめ、学級で発表した。
- ・ 自分の意見もはっきりと言え、相手の意見も聞いてそこから新しい考えも出すことができたと思いました。

(オ) 検証授業の成果

9月の学級活動において、9月以降の学級としての行動目標を観点別に定めた。この内容を基に、本時においては、合唱コンクールに向けて具体的にどのような行動をとることが学級のためになるのかを考えることができた。

生徒たちは、合唱コンクールに向けて、「頑張りたい」、「ちゃんとする」という漠然とした思いはあっても、そのために何をすべきかという具体的な行動まで考えを深められていなかった。自己との対話を通して、思いを具体的な行動に移す手段を見付けることができた。

また、上記の感想にあるように、他者の意見を聞くことで、他者の意見のよさを見付け、新たに自分の考えに取り入れることができた。

本時の約1週間後、実際に合唱コンクールの練習が始まったときには、自然と学級に協力する行動をとる生徒の姿が多く見られた。具体的な行動を考え、決めておくことで、学級に貢献しているという自覚をもち、自信をもって学級のため行動することができるようになった。

エ 第4回

(7) 題材名「合唱コンクールの振り返り 学級の一員としてどのように行動できたか」

学級活動（2） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

(イ) 本時のねらい

学級の一員として、合唱コンクールに貢献できたかどうかを振り返る。自己評価及び相互評価を通して、自己の成長に関する成果と課題を見だし、今後の学校生活にどのように生かしていくか意思決定をする。

(ウ) 本時の展開

	学習内容	指導上の留意点	評価規準
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を確認する。 ・ 合唱コンクール練習開始から、本番までの練習風景をまとめた映像を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の概要と目標を説明する。 ・ 学級としての成長に気付けるような映像にする。 	
展開 32分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の振り返りを行う。クラス・個人の目標の確認 ・ 【自己との対話】① 合唱コンクールへの取組で自分が頑張ったこと、もっと頑張れたことを書く。 ・ 【他者との対話】 同じ班の仲間が貢献したことを見付け付箋に書き、本人に渡す。 ・ 【自己との対話】② 班員からもらった付箋を見て、感じたこと考えたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級の行事に対する行動目標、個人の行動目標を確認し、個人目標をワークシートに貼らせる。 ・ 自分の目標と照らし合わせながら、自身の成果と課題を振り返らせる。 ・ 具体例を説明してから書かせる。班員全員に必ず一枚以上書くことを伝える。 ・ もらった付箋を見て、自分には見えていない自分に気付かせる。 	<p>【思考・判断・実践】 自己の生活や学習への課題を見いだしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしている。</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意思決定 本日の活動を通して分かった自己の成長と課題を今後の生活と結び付けて考える。 ・ 振り返り 評価シートを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい学級生活づくりのために、今後どのように行動するべきかを、改めて考えさせる。 	<p>【思考・判断・実践】 自己の生活や学習への課題を見だし、多様な意見を基に自ら意思決定をしている。</p>

(エ) 生徒の変容

生徒が行動目標を基にして行動をしていくという変容が見られた。その過程で、自身や友達について理解が深まったようであった。

「1 自分の目標」(10月に目標設定)

- ・ まずは私から声を精一杯出していく。
- ・ パートリーダーとしてテノールを引っ張り金賞を狙う。

「2 自分が頑張ったこと」

- ・ 何度も注意されて嫌になったが、くじけないでもう少しだけ頑張ろうと思った。
- ・ 歌詞の内容を理解して気持ちを込めた。

「3 もっと頑張れたこと」

- ・ もう少し早いうちから友達のアドバイスをよく聞いていればよかった。
- ・ もっと一人一人を本気にさせてあげればよかった。
- ・ 本番では、テンポがどんどん速くなってしまったので、緊張したときの対策を考えておけばよかった。

「4 友達からのメッセージ(付箋に書かれた内容)」

- ・ アルトは人数が少ないのに、最初からとても声が大きかったよ。ありがとう。
- ・ 前に出て何個も何個もアドバイス。そういう一面もあるのだなあとと思った。
- ・ 少しもめたこともあったけれど、みんなの意見をまとめてくれてありがとう。

「5 友達からのメッセージを読んで感じたこと」

- ・ 感謝の言葉を書いてくれて嬉しかったし、役に立ててよかったと思った。
- ・ 大したことはできなかったけど、ちょっとしたことまで見てくれたので驚いた。

「6 今後、クラスにどのように貢献したいか」

- ・ クラスにもっともっと思いを込めて、積極的に協力していきたい。
- ・ 一人一人がどこで輝けるかを考え、みんながよさを出せる個性豊かな団結力のあるクラスにしたい。

(オ) 検証授業の成果

1学期後半以降、自己評価と相互評価を取り入れた活動を繰り返し行ってきた。学校生活における様々な場面での具体的な行動目標を教室に掲示し、望ましい行動をとれた友達に「いいねカード」を贈り、賞賛する活動も行った。このような活動の効果もあつてか、本時の自己評価や班員へのメッセージは、自分の言葉で具体的に書けるようになった。内容も、前向きに、自己のよさを生かしながら、学級全体をよりよくしたいという旨の記述が多く、互いの可能性を高め合う雰囲気は少しずつ醸成されているように感じる。班員にメッセージを書く活動では、具体的に長く書けるようになった分、時間が足りないという状況に陥った。生徒の成長の段階に応じて、時間の設定や班編制の工夫が必要である。また、最初の目標設定に具体性が乏しいために、自己評価や相互評価がしづらいという経験をした生徒も多かった。一人一人を高めていくためには、最初の目標設定が重要であることについてもあらかじめ十分に指導しておく必要がある。

VI 成果の検証

1 自己実現に対する生徒の意識の変容

5月と11月の2回、特別活動において育成すべき資質・能力である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を踏まえた「学級活動に関するアンケート」(P4 表1参照)を実施した。その結果の平均値を算出し、生徒の意識の変容を比較した。今回の研究仮説では、「自己のよさや可能性を生かす力」とし「自己実現」に焦点を当て、検証を行った。

(1) 数値の変容からの分析

「自己実現」に対する質問事項は右に示す図1のとおりである。全ての項目においての2回目に実施の数値が上昇した。特に「1 私は自分のよさを学級活動で生かしている」、「3 私は学級活動で班員に自分の意見を述べる事ができる」、「4 私は、学級活動で学級全体に自分の意見を述べる事ができる。」

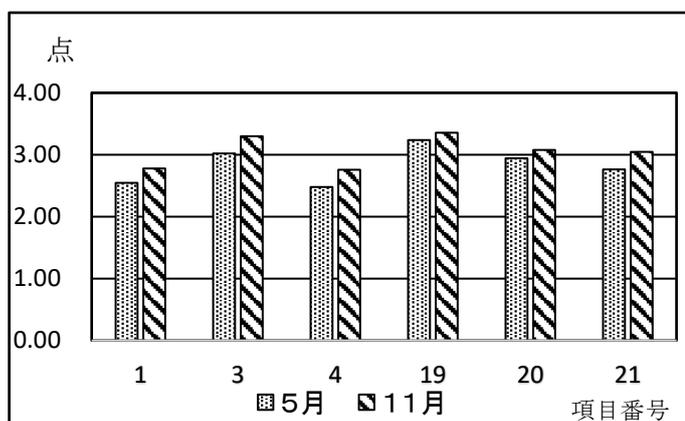


図1 自己実現への意識の変化

できる。」、「21 私は集団活動を通して自分の成長を感じている」の四項目では、数値の上昇が大きく見られた。この結果から、検証授業や日々の学級活動を通して、互いの人間関係が構築され、学級全体で個人や学級の目標実現に向けて、主体的・対話的に課題解決しようとする意識が向上したと考えられる。また、集団活動の自己評価や相互評価を繰り返し、それを積み重ねていくことで、生徒一人一人が成長を実感できたと考えられる。

(2) 自由記述内容の変容からの分析

「1 自分のよさを書いてください」より	
1回目 ・好きな教科を頑張っているところ ・優しいところ ・笑うところ	2回目 ・人の話をよく聞くところ ・学級での活動に、真剣に取り組んでいるところ ・他の人の意見もよく聞くところ
「21 自分の成長を感じる場所を書いてください」より	
1回目 ・無回答 ・自分の考えを述べられている。	2回目 ・自分のアイデアを提案できるようになった。 ・自分のためだけでなく、みんなのために行動するようになった。 ・相手の意見をよく聞いて、尊重できるようになった。

上記の変容から、自分のよさをより具体的に捉えることができるようになり、それを生かして他者と協力し合えるようになったと考えられる。人との関わりについて記述する生徒も多くなったことから、検証授業実施の過程で、自己有用感が高まり、集団の中の一員であることをより強く意識し、自分のよさを生かして発言や行動できるようになったと考えられる。

VII 研究の成果

1 自己実現に必要な資質・能力について

本研究では、自己実現の基盤となる資質・能力の育成のために、生徒の自己肯定感を高めることが必須であると考えた。そこで、生徒自身が自己のよさや可能性に気付くために、学校生活における具体的な行動目標をもち、実践し、自己評価や相互評価を通して成果を実感するとともに課題を見いだすことができるような指導計画を立案し、その有効性を検証した。その結果、生徒の自己実現に対する意欲の高まりがうかがえた。また、自由記述にもみられるとおり、検証授業を通して自己のよさを実感できる生徒も増えたことなどから、生徒一人一人の自己肯定感が高まったと考えている。

さらに、目標を決めるための話し合い活動や相互評価を通して、自分だけでは気付かなかったことに気付いたり、新しい考え方を見いだしたりするなどの効果があった。

2 指導上の工夫について

具体的な行動目標を立てるに当たって、学校生活を場面や活動内容によって4種類に分けて捉えさせた。また、話し合い活動の際には、どの場面の評価をしているのか分かりやすくするために4色の付箋を使用した。この結果、生徒たちは、図式化された行動目標を参考にし、自己の行動目標を意思決定したり、相互評価の際に付箋を使用し、評価を可視化して話し合い活動を充実させたりするなどの効果が得られた。

3 自主的・実践的な活動を積み重ねることについて

中長期的な目標をもって集団活動を行うことと、短期的な目標をもって集団活動を行うことの双方において自己評価、相互評価を行う取組を進め、積み重ねていくことで、生徒が年間を通じて目標をもって行動することにつながった。こうした活動の積み重ねは、生徒自身が協働的に学校生活に取り組む態度につながった。

VIII 研究の課題

1 小学校、高等学校等とのつながりを意識した、指導実践の継続

本研究は、実践の積み重ねとしては短期的な取組である。生徒の自己実現に必要な資質・能力を育成するには、3年間の見通しをもって継続的な指導を行っていく必要がある。また、学習指導要領改訂の基本的な方向性を踏まえ、特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要となり、小学校から高等学校等までの教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むというキャリア教育本来の役割を果たすためにも、小学校からの指導実践の積み重ねと高等学校等への接続を意識した指導を行う必要がある。

2 自己のよさや可能性を生かす指導の教科横断的な実践

本研究では、自己評価や相互評価の積み重ねを重視した集団活動を行った。検証の結果、生徒たちが多様な意見に触れ、自己の成長を実感していくことで、自己実現に必要な力を高めることに効果が見られた。このことは、他教科でも生かせる内容であると考えられる。教育課程における各教科等の年間指導計画において、話し合い活動等の集団活動を位置付け、学校教育全体を通して、自己のよさや可能性を生かす指導を進めていくことが必要である。

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

中学校・特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
足 立 区 立 六 月 中 学 校	教 諭	浦 野 愛 美
江 戸 川 区 小 松 川 第 二 中 学 校	主任教諭	鶴 岡 友 樹
小 平 市 立 小 平 第 六 中 学 校	主幹教諭	石 神 晋 哉
東 久 留 米 市 立 西 中 学 校	主任教諭	佐 伯 豊 明
瑞 穂 町 立 瑞 穂 第 二 中 学 校	主任教諭	◎吉 澤 浩 太

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 半野田 聡

指導主事 飯田 浩行

平成 31 年度 (2019 年度)
教育研究員研究報告書
中学校・特別活動

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849